

になり、台湾ならではのグルメや雰囲気を楽しむことができた。

プログラム内容が決まっているがゆえに、自由時間がないというわけではなかった。台北では MRT やバスなどの交通の便が良く、例えば、台北 101 での買い物や、千と千尋の神隠しのモデルになった九份など様々なところに行った。

最終日には、このプログラムに参加して学んだことをプレゼンテーションした。プレゼンテーションは基本的にはグループ単位で行われたため、各グループの特色があり、飽きることなく楽しむことができた。会場内には、台湾師範大学の学生スタッフや教授の方などがおり、真剣に話を聞いてコメントを返してくれる気配りが見られた。また音楽が流れるなどリラックスした雰囲気であり、非常に話しやすい環境であった。



図2 夜市 (左)、九份 (中央)、プレゼンテーション (右)

おわりに

今回 **Spring Program** に参加することで初めて見えてくるものや感じるものがあつた。

特に最終日のプレゼンテーションでは、学んだことを英語で話す難しさを痛感した。しかし台湾の方は非常に温厚で、私の拙い英語を一生懸命理解してくれようとした。また彼らとのコミュニケーションを通して、理解できないことや表現できないことが多々あつたが、伝わることもあり非常に充実したものになった。この喜びが私自身の「学ぶ」ことへの意欲を刺激し、今後も英語の学びを継続していこうと強く感じた。この貴重な経験を私の次のステップに生かしていきたい。

最後に、お世話になった山口大学関係者の方々、関西学院大学関係者の方々、台湾師範大学関係者の方々に心より感謝申し上げます。